



Tさん 高等学校・校長・経験年数33年（教諭20年／行政10年／教頭2年／校長1年）

地域を歩いて、街並みの中にある様々な発見を楽しんでいます。地面の高低差、不自然な曲がり道、変わったフォントの看板、夕食前の路地に漂う香り等々……自分なりの感覚と知識を使って、地域の歴史・文化に思いを巡らしたり、想像力を働かせたりしています。また、夜には飲食店にぶらりと入って、ご馳走や人々との思いがけない出合いを愉しんでいます。

その取り組みはどのくらいの頻度で実施していますか。また、どのくらいの期間継続していますか。

思い立った時に無理のない程度に。毎週のように街ブラすることもあれば、ゼロの月もあります。昼の場合は主に土日ですが、夏場や冬場は、熱中症や風邪にかかっては元も子もないので控え目にしています。夜の場合は、おもに定時退校日。平日はお客さんが少ないので、静かな雰囲気の中で一人呑みが楽しめます。

その取り組みをはじめたきっかけを教えてください。

テレビでよく放映されている、タレントによる街歩きの影響が大きいです。実際に自分もやってみたいという願望は以前からありました。今の職場に赴任して、不慣れな土地を自身の目で見て、確かめてみたいという思いもありました。夜の街ブラ、一人呑みについては、自治体が「食のまち」を売りにしていることも大きく影響していると思います。

その取り組みにまつわるエピソードをできるだけ詳しく教えてください。

「一人呑み」は相手に気を遣わず、また相手にも気を遣わず、カウンターで自分のペースで飲食を楽しむ「贅沢な時間」です。ある晩、そのつもりで店に入るや、知り合いの方たちとすぐに目が合ってしまう、そのまま同じテーブルに。にぎやかな宴会になってしまいましたが、そういう「予定不調和」もまた楽しいものです。

あなたにとって、その取り組みはどんな時間ですか？ また、その時間があなたの人生に変化やプラスになったことがあったら教えてください。

何気なく見ている風景は、地質学的には数万年前から地球の動き、歴史的文化的には数百年前から人間の知恵が積み重なった記録です。身体を通じた時間旅行は、お手軽な気分転換になります。また、一人呑みは、感覚が研ぎ澄まされるような感じがしてきます。焼酎の香りや料理の出汁の深み等を感じ、新

しい世界に足を踏み入れたという満足感に浸ることができます。

仕事との両立で心掛けていることはありますか？ 特に仕事以外の時間をどのように作っていますか。また、その時間を作るコツや工夫していることを教えてください。

「両立」という言葉自体、仕事とプライベートが相反する二つのもので、どちらかを立てればどちらかがダメになると認めているようなもの。強いて言えば、仕事にしてもプライベートにしても、おもしろがる、楽しんでやってみるということのをこれからも大切にしていきたいと思っています。

今後、仕事以外で挑戦したいこと、勉強してみたいこと、やってみたいこと、目標などがありましたら教えてください。

挑戦とか勉強とか目標とかは考えず、プライベートぐらいは「気負わない」楽しみ方を大切にしたいです。

これから教職員になる方に向けてメッセージをお願いします。

「魅力的な生活者であること」は、生徒の前に立つ一人の大人としての大切な要素ではないかと思います。教育という仕事とは直接結びつかないような、一見ムダと思われる「遊び」の時間、学校の外側に、自身のライフスタイルを充実させるものがあるのではないかと思います。

仲間の先生方に向けてもメッセージをお願いします。

50代ともなると、大きな責任を担うことが多いものです。だから、オフ時には「役割のない自分」を確認する場面が必要だと思います。職場や仕事の付き合いという人間関係から解放された「孤独の時間」は、自分自身を取り戻すための聖域です。